

半歌仙 漆紅葉

- 発句 山深み漆紅葉の自足せり 丹仙
- 脇 月読み男憩ふ杣石 茉莉花
- 第三 畳紙に秋の袷をとりだして 真奈
- 四 表裏たしかめ半歌仙巻く 丹仙
- 五 持ち寄りの菓子つまみなぞ盛るならん 茉莉花
- 六 深雪蹴つたる犬の後足 海斗
- 裏移
- 一 かまくらを作れる子らのはしやぎ声 茉莉花
- 二 ふと黙り込む甘酸っぱい刻 真奈
- 三 黒板の相合い傘に名をつらね 素蘭
- 四 「ハイ本番！」とカチンコが鳴る 茉莉花
- 五 蚊とんぼは今さらながら怖気づき 真奈
- 六 涼しき方へなむあみだぶつ 丹仙
- 七 真白なる赤穂の塩の山に月 弁慶
- 八 とろろ薯摺る夫は浪人^{つま} 丹仙
- 九 破れ目の少し気になり障子貼る 茉莉花
- 十 猫の尿する大津絵の顔 素蘭
- 十一 小庭にてひねもす花に戯むれて 蘇生
- 挙句 日本^{やまと}の春と独り言つ哉 海斗

起首 平成一五年二月二八日

満尾 平成一五年二月三一日